

陸前高田発

一本松ヘリコプター



気仙地区の有志が災害対応や観光に役立てようと、陸前高田市を拠点とするヘリコプターの運航を開始しました。ヘリコプターの運航を始めたのはNPO法人「J-ISLANDS(ジュリエット・アイランス)」で、ヘリの愛称は「一本松ヘリコプター」です。ヘリの運航は滋賀県東近江市の「マックスパワー」に委託し、パイロットと整備士の2人が常駐します。(6/3 ニュースエコー)

めめたのはNPO法人「J-ISLANDS(ジュリエット・アイランス)」で、ヘリの愛称は「一本松ヘリコプター」です。ヘリの運航は滋賀県東近江市の「マックスパワー」に委託し、パイロットと整備士の2人が常駐します。(6/3 ニュースエコー)

東京・釜石・盛岡発

復興事業費地元負担関係

達増知事は復興庁で竹下亘復興大臣と会談。45項目に及ぶ復興に関する要望書を手渡し、復興事業費の一部地元負担については復興大臣に「できるかぎり負担を少なくしてほしい」と求めました。また達増知事は自民党本部や総務省、文部科学省も訪れ要望書を提出しました。



(6/4 ニュースエコー)



釜石市では13の沿岸市町村でつくる復興期成同盟会の総会が開かれました。同盟会の会長を務める釜石市の野田武則市長は、復興事業費の一部で被災自治体に負担を求める国の方針について、負担軽減を求める要望をとりまとめることを明らかにしました。

(6/4 ニュースエコー)

達増知事や沿岸市町村長と小泉進次郎復興政務官が岩手県庁で意見を交わしました。達増知事が県と復興期成同盟会との連名の要望書を小泉政務官に手渡し、意見交換では沿岸と内陸をつなぐ道路整備について地元負担を無くし、震災復興特別交付税による全面的な財政支援継続などを求めました。小泉政務官は「各沿岸市町村からの意見を聞きしっかりと方針をまとめる」と話していました。



(6/8 ニュースエコー)

釜石発

砂浜の自然再生困難



東日本大震災の津波で砂浜が消えた釜石市の根浜海岸について、市は自然に再生するのは困難との調査結果を発表しました。根浜海岸は津波と地盤沈下などにより海岸線が300メートル後退し、砂浜が消失しました。釜石市は岩手大学の協力を受け調査しましたが、砂浜が自然に再生するには360年かかるという結論に至りました。市は人工的に砂浜を再生させる事業を県と協議する方針です。(6/8 ニュースエコー)

東日本大震災の津波で砂浜が消えた釜石市の根浜海岸について、市は自然に再生するのは困難との調査結果を発表しました。根浜海岸は津波と地盤沈下などにより海岸線が300メートル後退し、砂浜が消失しました。釜石市は岩手大学の協力を受け調査しましたが、砂浜が自然に再生するには360年かかるという結論に至りました。市は人工的に砂浜を再生させる事業を県と協議する方針です。(6/8 ニュースエコー)

陸前高田発

復興支援人形劇

陸前高田市では、今年4月に竣工したコミュニティホールに、市内8つの小学校の1年生から3年生まで380人を招いて、人形劇の公演が行われました。公演は東京の日生劇場が震災発生から「被災地の子どもたちに笑顔になってほしい」という願いを込め、被災地の小学生を対象に行っている復興支援活動の一環です。演じられたのは「ズッコケ3人組」で、小学3年生の3人組が江戸時代にタイムスリップする奇想天外な物語に集まった児童たちは大喜びしていました。(6/8 ニュースエコー)



陸前高田発

さんりく元気ラジオ!

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

今週は、陸前高田災害FMの大久保暢子さんが「NPO法人 A I d (エイド) TAKATA」の活動について伝えてくれました。「A I d TAKATA」は陸前高田災害FMの運営する法人で、海外からの支援や陸前高田市への国際交流の受け入れ窓口を行っています。育成事業にも取り組み、7月10日・11日に『日米高校生サミット in 陸前高田』を開催するとのことです。(6/10)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.abc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122